

土木学会にて

# 地域貢献型防災教育 を目指して

高知市立城西中学校  
校長 宮田 龍

# 自分の命は自分で守る防災

潮江中

防災教育推進校

南海地震は必ずおこる!!

# 高知市は海と山に囲まれた 自然があふれる街



# 平成23年度の実践

- \* 防災ポスター「地震に注意！」3000枚印刷・配布・掲示。**【啓発活動】**
- \* 授業を通して運動場にある防災倉庫の資材を生徒たちで校舎4階に移動、この行動が地域の自主防災の担当者も賛同して地域防災の資材も共同で保管することとなった。**【地域との協力活動】**
- \* 防災通りの作成(本校美術部作成)**【学習・啓発活動】**



南海地震は必ずおこる  
高層に注意

2. 北東部  
北東部  
(17)



# 地震に注意!!

## ～南海地震は必ずおこる～

三  
千  
枚  
印  
刷



### 1 南海地震は必ずおこる。

●次の南海地震は、マグニチュード8.5前後の大きな(昭和の南海地震の8倍)で発生し、県内のはとんどの地域で震度5強から6強(一部では震度7)という強い揺れがあると予想されています。この強い揺れは、約100秒続くことが予想されています。



### 2 地震発生時に注意する。

●家中揺れ始めの中にいたら家具の転倒、ガラスの破損に注意しましょう。また、耐震性の低い建物は危険になります。  
●部屋にいたら大きな家具や本棚が倒れ、棚落ちなどが落下することがあるので、丈夫なテーブルや机などの下に隠れましょう。  
●携帯電話が予想されます。  
●体を守ること、さらに足のけがに注意しましょう。



### 3 地震発生時に注意する。

●外にいたら建物の近くを歩いている時は、ガラス窓、屋根などの落下物に注意し、持ち物で頭をカバーし、身を守る場所へ逃げます。  
●ブロック塀の揺れを歩いていたらブロック塀は倒れるおそれがありますので、すぐに離れましょう。  
●学校で地震がおきた時の一番のポイントはあわてずにまず気持ちは落ち着かせましょう。その次に高いところに避難しましょう。



### 4 余震に注意

●地震発生が発生し後は建物の耐久性が落ちている可能性があり、規模の小さな地震でも、被害や倒壊の危険があります。そのため、余震による被害に注意する必要があります。1年間ほど、震度5強程度の余震に注意をしましょう。



### 5 津波に注意

●揺れ始めてから、1回目約3分から30分以内にやってくる。  
●その後も高い波が、何度もやってくる。  
●川も水陸もあふれながらあがります。  
●引き波で始まるとは限りません。また、海上の高さでも、人は立ってはいけません。  
●正しい情報をもとにすぐに避難しましょう。



### 6 津波から身を守る

●強い揺れを感じたときは直ちに海岸から離れましょう。そしてなるべく高いビルなどの安全な場所に避難しましょう。  
●潮が引いてくる津波に注意しましょう。津波はスピードが速い。警報・注意報が解除されるまでは、絶対に海岸に近づかないようにしましょう。  
●正しく情報を受け取り、小さな揺れでも油断しない。  
●大きな地震発生は、直ちに、避難へ避難しましょう。



### 7 津波による被害

●人がおぼれ、家が壊れます。  
●流されたものが人を傷め、また行く手をふさぎます。  
●火災が発生します。  
●海内には流されてきたもので、いっぱいになり、船が沈没でなくなります。



### 8 火災は急がず

●地震の後はさまざまな災害が起こります。余震による火災や、建物の倒壊がまだおこるので油断してはいけません。小さな津波ややってくるので、できるだけ高い場所へ避難を避けましょう。



江東小学校



ONESELF RULE  
Don't be excited and worried

地震に注意!!

地震に注意!!

地震に注意!!

地震に注意!!

地震に注意!!

地震に注意!!

# 津波対策 移転自ら

高知市内で防災倉庫が置かれていた80カ所のうち、同市塩屋崎町1丁目の市立潮江中学校の生徒たちが30日、運動場にあるため津波浸水のおそれがある倉庫の資機材を校舎の4階へ移動させた。倉庫の被災を防ごうとする同校生徒と、倉庫の移転を検討していた市の考えが一致。市の了承を得て生徒自らが行動に出た。

防災倉庫には地震や津波、火災などが起きたときに必要となる地域の消防団や自主防災会などの防災用具や工具、リヤカーなどが使う。高知市内では主に



倉庫にあった物資を持って校舎の階段を上がる生徒―高知市塩屋崎町1丁目

## 生徒ら提案市の了承得る

学校や市の施設の1階に設置されており、市危機管理室が管理している。県の現在の南海地震の想定では、市内80カ所のうち28カ所が浸水区域にある。

市危機管理室は東日本大震災以降、津波による倉庫の流失を防ぐために倉庫の移転を検討。このうち、4階以上高さがある津波避難ビルに指定されている12カ所で、来年3月までに倉庫を高い場所へ移動させる計画を立てた。

そこへ、潮江中学校の生徒から倉庫の高台移転の提案があった。同校は12カ所の一つ。約200名北に鏡川、約2.4km南に高知港があり、現在の県の想定では約1.5mの浸水が予想される。倉庫は標高約1.4mの運動場にある。

同校では今年7月から学年ごとに総合的な学習の時間で、南海地震について学習。班別に防災マップを作ったり、過去の南海地震などについて調べたりした。

倉庫の高台移転を提案したのは、主に地元の防災を学んでいた1、3年生。11月中旬の保護者参観日に学習内容を

発表した際、「飲料水を備蓄する」「ボートやライフジャケットを準備する」など意見が出た。中でも自分たちでできることとして、1、3年生とも「水没するかもしれない倉庫を高い場所へ移す」が結論となったという。これを受けて、中学校が「防災意識を高めるために、生徒自身に倉庫の中身を運ばせたい」と市危機管理室に連絡し、許可を得た。

同校には校舎4階に空き教室（標高約11.4m）があり、そこに移動させることになった。30日は約70人の生徒が、スコップ、のこぎり、チェーンソー、毛布、はし、トイレットペーパーなど倉庫の約30種類の資機材を運んだ。教室は今後、防災倉庫を兼ねた学習室として、地震や津波の授業で生徒が発表した内容を掲示するという。

同級生と運搬作業をした1年生の沢田有紀さんは「4階にあれば下が津波で浸水しても素早く使える。倉庫に何があるかを調べて、普段の授業に役立てたい」と話した。

（瀧沢卓）

朝日新聞  
2011年  
(平成23年)  
12月1日

防災通り



天災は  
忘れられたる頃来る



寺田 寅彦  
1878~1935



# 平成24年の実践

\*保育園児との避難訓練の実施

【地域との協力活動】

\*校区の高齢者との避難訓練

【全校の生徒が協力する。地域との協力活動】

\*校舎内に防災展示館をオープン生徒や地域の防災力を高めた。

【学習・地域とのコミュニティ協力活動】

\*企業等から潮江中学校に

「津波救助避難艇」「雨水を飲料水に変換できる機械(防災王)」さらに、循環式トイレの寄贈を受ける。

【避難所の整備活動】

# 地域防災教育の拠点へ

高知市立潮江中（生徒数約400人）に30日、地域の防災教育の拠点となる防災展示館がオープンした。宮田龍校長は「住民や小学生とも連携し、地域に貢献できる防災教育を目指したい」と意気込む。

【小坂剛志】

## 高知・潮江中に展示館オープン

同中は海拔70㊦。南海地震では最大1・5㊦、最大約4㊦の津波が予測されている。

展示館は校舎内の教



新しく設置された防災展示館で「稲むらの火」の紙芝居を見つめる児童ら。高知市立潮江中で

## 津波の恐ろしさ常に念頭に

よう南海大地震

室を利用し、防災ベストや非常食といった防災グッズが並ぶ。高さ3㊦の和紙に墨や絵の具で津波を表現した「防災教育シンボリアート」も展示している。制作した日本画家、中村達志さん（45）は「市には「津波の恐ろしさ」を忘れないことが大事。作品を見ることで津波の高さを具体的に

話し合っている。同中は9月12月1日まで教育推進月間とけ、生徒や児童成果を同館にいく。宮田校子どもたちの発した防災グッズ提案できるは待した。

この日は地元の保育園児らを展示館に招待し、生徒2人が「稲むらの火」をテーマにした紙芝居を読み聞かせた。「稲むらの火」は、安政南海地震（1854年）で住民を津波から救った和歌山県の実業家の姿を伝える物語。3年の北緯倫子さん（15）は「命よりも大切なものはない。津波は備えることが大事で、私も日ごろから家族と避難場所について

と話す。

# 備えよう南海大地震

るために



知見としての植物の活用

● 土壌改良剤 ● 堆肥の調製



● 堆肥の活用



● 肥料の活用



8月の行事予定表

8月1日 土曜日

8月2日 日曜日

8月3日 月曜日

8月4日 火曜日

8月5日 水曜日

8月6日 木曜日

8月7日 金曜日

8月8日 土曜日

8月9日 日曜日

8月10日 月曜日

8月11日 火曜日

8月12日 水曜日

8月13日 木曜日

8月14日 金曜日

8月15日 土曜日

8月16日 日曜日

8月17日 月曜日

8月18日 火曜日

8月19日 水曜日

8月20日 木曜日

8月21日 金曜日

8月22日 土曜日

8月23日 日曜日

8月24日 月曜日

8月25日 火曜日

8月26日 水曜日

8月27日 木曜日

8月28日 金曜日

8月29日 土曜日

8月30日 日曜日

8月31日 月曜日



自分の命は自分で守る!!





津波から命を守る

Informational display board with multiple panels containing text and images, including a logo for the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

Vertical display board with three panels showing illustrations of people in boats during a tsunami, with the text "津波から命を守る" repeated on each panel.

# 地域に貢献できる防災





# 平成25年度の実践

\*沿岸部学校と山間部の学校との交流会でさらなる防災教育の発展を目指した。

(非常食体験、公共の施設にガラス飛散防止フィルム貼り体験の実施)

## 【地域との協力活動】

\*「地震に注意」南海地震啓発ポスター4カ国語版を作成。 【啓発活動】

\*「ぼうさい・避難所かるた」の作成

## 【学習・啓発活動】

高知市青少年施設  
校区：公民館  
図書館  
ガラス飛散防止  
フィルム貼り





# 4カ国語で「警戒を」

## 高知駅にポスター

### 市立潮江中 生徒が作製

南海地震

備える



高知市立潮江中(宮田龍校長)の生徒が、海外からの観光客や県内で暮らす外国人に南海トラフ巨大地震への警戒を呼び掛けるポスターを作製、29日にJR高知駅に渡した。9月4日まで構内に掲示される。

同中は東日本大震災が発生した11年に「南海地震に備えよう」と呼び掛けるポスターを作製し、生徒らが小学校で災害への備えについて教える「出前授業」などで約3000部を配布してきた。

今回は生徒らが、高知大の留学生や同中の外国人生徒らの協力で、ポスターを英語、中国語、韓国語、スベ

イン語の4カ国語に翻訳。「南海地震は必ず起る」「津波から身を守る」など11項目をイラスト入りで説明し、災害の際に言葉の壁などから「災害弱者」となる外国人に備えるの必要性を呼び掛ける。

ポスターを中国語に訳した同中3年の陳其龍さん(14)は「私も日本に来るまで津波や地震の恐ろしさは分かりませんでした。観光客や留学生の助けになれば」と話していた。

【岩間理紀】

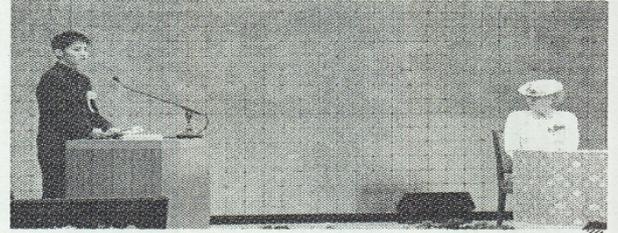




# 2014年度(26年度)の潮江中学校

## 平成26年度の実践

中学校・実践



全国赤十字大会

# 学校挙げた防災教育 皇后さまを前に報告

## 高知市立潮江中が栄誉

学校を挙げて行った防災への取り組みを、皇后さまと皇族の方々に紹介  
皇后さまを迎えた大会で  
潮江中の実践を発表する  
中平君（左）

学校を挙げて行った防災への取り組みを、高知市立潮江中学校（坂本昌二校長）は、そんな栄誉に輝いた。潮江中は5月15日に行われた全国赤十字大会で、「防災の取り組みについて」をテーマに実践活動

の報告を行った。南海トラフ地震による津波の被害が予想される潮江中は、防災教育に力を入れてきた。

小学校に向いて開催する防災学習会など、多彩で充実した内容を行っている。潮江中は青少年赤十字

その取り組みは、地域や企業、団体と協力して地域に貢献できる防災活動に発展。地域住民と一緒に行う避難訓練、校舎内につくった防災展示館、生徒が地元幼稚園や

加盟校であり、日本赤十字社もその取り組みに注目。全国に活動事例を伝えてほしいと、大会での報告団体に選んだ。皇后さまと皇族の方々を迎えた大会で発表した



# 平成26年5月15日 潮江中の取り組みを 発表

の報告を行った。南海トラフ地震による津波の被害が予想される潮江中は、防災教育に力を入れてきた。

# 職場体験学習時に

①作成したポスターを掲示

②避難訓練や備蓄品等の聞き取り



潮江中2年生

## 職場体験で“防災対策取材”

職場の防災対策、大丈夫？  
高知市の潮江中学校の2年生約150人が5月、職場体験学習に合わせ、受け入れ先となった60事業所で物資の備蓄や避難訓練の実施状況などを調査しました。防災学習とキャリア教育に、「取材」というNIEの手法を織り交ぜた取り組みで、それぞれの学習効果を一層高めようとの狙いです。

防災教育を柱に据える同時では、生徒たちが3年間、さまざまな調査や体験、発表などを重ね、防災への高い意識を培いつつ、言語活動の素材にも活用。現在の2年生は1年時、津波避難や救急救命の訓練で得た知識や教訓を「はがき新聞」にまとめ、情報を的確に伝える基本を学びました。

## 150人が60事業所調査

を進めてもらうきっかけになればと計画。高知新聞社で記者の仕事を経験した女子3人は、身に付けたばかりの取材スキルを生かし、担当者に「貴社は避難訓練をしていますか？ 年に何回くらい？」「物資はどんなものを備蓄していますか？」など、具体的な対策を尋ね、メモを取っていました。

また生徒たちは、同校で作った防災啓発ポスターの掲示も要請。許可をもらい、笑顔でポスターを貼っていました。

調査結果は1学期中をめどに、同中の3年生15人からなる「防災プロジェクトチーム」が中心となって集約し、何らかの形で発表する予定。同中の坂本昌二校長は「自ら調べ、発信する活動が一人一人の防災意識をより高め、学習意欲も高まっている。今後も発信を念頭に置いて、NIEも織り交ぜた取り組みを続けたい」と話していました。

(高本浩史)

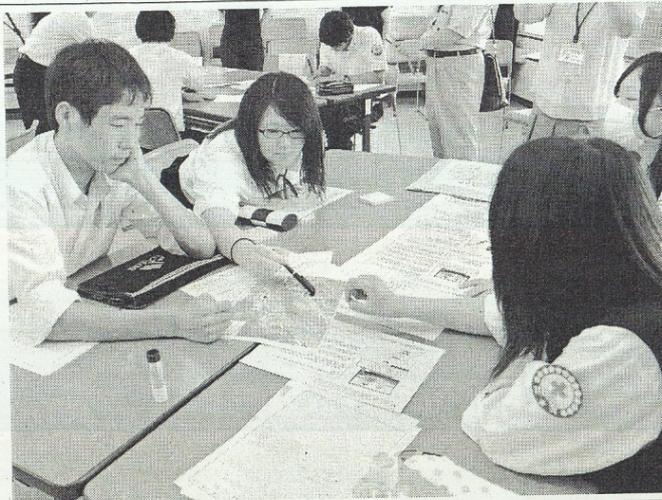


⑤職場体験先の防災対策を聞き取る潮江中2年生⑤2枚の防災啓発ポスターを掲示してにっこり(写真はいずれも高知市本町3丁目の高知新聞社)

# 大雨の時の行動等について学ぶ

高 知 新 聞

2014年(平成26年)7月5日(土曜日)



## 大雨の時どうする？

潮江中で  
防災教室  
状況判断学ぶ  
高知市

大雨による被害防止や避難時の判断力を身に付けてもらおうと、高知市の潮江中学校で4日、防災教室が開かれた。生徒約20人が参加し、グループごとに状況判断や避難のポイントを学んだ。

高知地方気象台と日赤県支部の主催。気象庁が公開したばかりの「経験したことのない

大雨 その時どうする？」という教材を、教育現場としては全国で初めて用いた。

グループでの話し合いは、大型台風が接近中との想定。住居は戸建てかマンションか▽足の不自由なお年寄りが同居しているか▽車はあるかといった細かな状況も設定された。

洪水や土砂災害の注意報が警報に更新されたり、付近で土砂災害が発生したりと、討論中にも状況は次々と変化するため、的確な判断が必要になる。生徒たちは、洪水や土砂災害のハザードマップなどの資料を手に、「歩行困難なおばあちゃん

設定された状況に適した避難方法話し合う生徒ら(高知市塩屋崎町1丁目の潮江中学校)

がいる。注意報のうちに準備をしよう」「車がないからタクシーを使おう」などと真剣。3年生の渡辺日南子さんは「早めに準備して避難できるよう、家族に自分から話したい」と話していた。

同気象台の職員は「自分の住む地域でどんな被害が予想されるかを知ることが大切」と呼び掛けた。

(早川 健)

# 2014年度(26年度) 城西中学校の実践

# 龍馬の地震への八策

城西中学校  
高知城の西に位置し、坂本龍馬の生まれた地が校区にある。  
現在の生徒数  
321名。

坂本龍馬は、1854年と6月23日に江戸から上陸し帰国した。11月5日熊本南津海震M8.4の地震を体験する。

龍馬の地震に関する記述はほとんど見られませんが、実家の坂本八平さんの変遷が瀬江であったため、大きな被害があり、龍馬の知人も多く亡くなったと推察する。当時の龍馬の気持ちも代弁して、近江村を去る「南海トラフ巨大地震」への備えを伝えた。

・地震は「いつ」「どこで」起こるかわからん。  
・あわてたらいかん。ほたえたらいかん。  
・周りの人に迷惑をかけたらいかん。

**一 一 自分の命は自分で守ることぜよ**  
一人一人命守らんへー  
●小中学校の子どもは大丈夫！自分で逃げられるぞ  
●家族がバタバタでも一人一人が逃げることが大事  
●背を背じて、ともに逃げること！  
●一つしかない「命」再より大事にするべし



**二 二 落ち着いて周りの状況をよく見て冷静に判断することぜよ**  
●本居呂中使所に入っている時は、あわてず戸を開け、逃げ場を確保して冷静に。避けている時は、いつでも逃げられるように、閉るとに窓の扉を「扉」では開ききれない！  
●地震は「いつ」「どこで」起こるかわからん  
●あわてたらいかん。ほたえたらいかん  
●周りの人に迷惑をかけたらいかん



**三 三 備えが大切ぜよ**  
●地震発生を事前に下準備して決めること  
●非常時をしのぐ備えを今すぐ準備すること【水と食料】  
●明日地震がくるかもしれないという心構え  
●日頃の地震訓練を大切に！ほたえなさいことが大事！



**四 四 火事が心配ぜよ**  
●いつでも地震の時は、火事がいっぺんに出さるぜよ。地震の時は、身を守ることが一番。火事が起こることがいつもある。火のものを落とすようにほたえなさい。火事が起こるとは必ずあるぞ。間違った準備で無様な場所に行ったらいかんぜよ。



**五 五 余震に注意することぜよ**  
●長い揺れがおさまっても、余震が襲ってくるぜよ  
●気を取り直して、身を守ることが大事ぜよ  
●余震で倒れた建物を、逃げ場所をどに不意に近づいたらいかん



**六 六 津波は何度でもやってくるぜよ**  
●大きな揺れのあとには、こじゅんと大きな津波がくるぜよ  
●津波がいにおつたら、高いところへ逃げることが大事  
●何回でも津波はやってくるぜよ  
●三時【避難】安全な場所で待つこと



**七 七 避難場所では皆で協力することが大切ぜよ**  
●みんな一緒に固まっている時こそ、助け合うことが大事ぜよ。大人や中高生や、こまかい子どもを大切にすることが一番大事なことじゅせよ。  
●避難場所での約束事を守ること。



**八 八 皆で心を一つにして、復旧と復興をやりきるぜよ**  
●自然に還らわす。みんなの力を結集して、元の村や街にもどして、みんなが元気になるようにすること。  
●「復旧の道は一つということはない。道は百も千も万もある。」  
「新しい道づくりを考えよ。」



南海トラフ  
巨大地震に  
注意



文明が進むにつれて人間は次第に自然を征服しようとする野心が空しく、文明の進歩のために自然と自然の恵みの調和が失われる。文明が進歩すればするほど、被害が大きくなる。人間は、自然との共存こそ大事であることも忘れてはならない。日本のような、自然界に存在する自然は、小中学校から地震・津波に関する学習を行うことが最も有効なものの一つである。  
【写真は忘れた事がある】坂本龍馬 一「坂本龍馬」の父は龍馬と実父が居た。一

# 一策、

## 自分の命は自分で 守ることだよ



—お父さんお母さんへ—

- ・小中学校の子どもは大丈夫！自分で逃げれるき
- ・家族がバラバラでも一人一人が逃げるのが大切
- ・皆を信じて、ともに逃げること！
- ・一つしかない「命」何より大事にすべき

# 八策、

土木(Civil Engineering)とは

「市民のための工学」あるいは「市民の文明的な暮らしのために、人間らしい環境を整えていく仕事」→



皆で心を一つにして、  
復旧と復興をやりきるぜよ

・自然に逆らわず、みんなあ～の知恵を出しおうて、元の村や街にもどして、みんなあ～が元気になるようにすること。

・「復旧の道は一つということはない。道は百も千も万もある。」

「新しい国づくりと考えよ。」

- ・地震は「いつ」「どこで」起こるかわからん
- ・あわてたらいいかん、ほたえたらいいかん
- ・周りの人に迷惑をかけたらいかん



ご清聴ありがとうございました